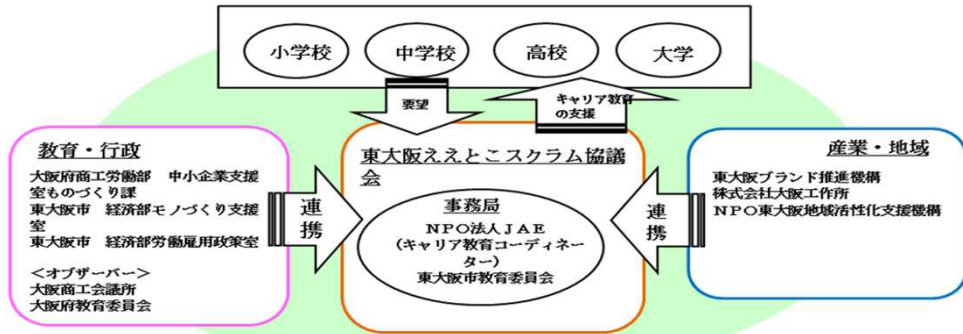


## 「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

<b>1. 実施主体</b>	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	NPO法人JAE
<b>(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置</b>	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>東大阪市におけるキャリア教育に関する現状については、</p> <p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全26中学校区においてキャリア教育の年間計画が策定されており、それぞれ校区ごとに「めざす子ども像」に向けた様々な取組みが行われている。</li> <li>・NPO東大阪地域活性化支援機構が東大阪市から委託を受け、年間5,000名程度市内の小中学生へ「モノづくり体験教室」という出前授業を実施し、小学生がモノづくりの楽しさを授業の中で体験できる機会づくりを行っている。</li> <li>・市内の中学校全てで職場体験学習が行われており、中学生が働くことや仕事について、地域の中で実体験できる取組みが行われている。</li> <li>・学校外においては、製造業を中心とする約70社を束ねる「東大阪ブランド推進機構」が「モノづくりひろば」という子供たちにモノづくりの楽しさを気軽に体験できるイベントが2013年12月より実施され、学校外でもモノづくりを体験できる機会が増えつつある。</li> </ul> <p>(2) 高校におけるキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大阪市立日新高校においては、毎年2年生の夏休みにインターンシップとして数名が東大阪市役所に実習を行うほか、大学進路希望者全員が大学見学を行う機会づくりを行うなど、生徒の進路にあわせた指導や機会づくりを行っている。</li> <li>・大阪府立布施北高校では、普通科では全国唯一の「デュアル学科」という地域の事業所へ年間を通じてインターンシップを行うカリキュラムを実施運営しており、地域一体となったキャリア教育の実践を行っている。</li> <li>・布施工科高校、城東工科高校では、実習やインターンシップを中心とした実践的なキャリア教育を展開している。</li> <li>・府立高校においては、教科学習や進路指導に重点をおいて各校特色のある教育を展開している。</li> </ul> <p>などがみられる。</p>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO東大阪地域活性化支援機構が小学生を対象にした「モノづくり体験教室」という出前授業は、毎年5,000名の児童へ体験教室を行っているが、学校側の要望は約10,000名ほどあり、需要に対して5割程度しか実施されていない現状がある。</li> <li>・中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所の業種・職種の内訳は販売や飲食、サービス業や福祉・公共施設などの比率が90%を超え、製造業は約5%にとどまっており、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない。</li> <li>・各地域においては教職員が主体となりキャリア教育の推進を行っているが、現場教職員の力量に委ねられており、学校・地域のニーズと産業界の支援提供者の情報が集約・可視化・仕組化されていない。</li> <li>・現場教職員は独自でキャリア教育の取組を行っているが、「東大阪ならではの地域資源を活かした特色あるキャリア教育の推進」には至っていない。その背景には教職員自身が東大阪における地域資源や魅力を知らないことことが大きいといえる。</li> </ul> <p>(2) 高校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校では進路指導・インターンシップなどキャリア教育の取組を各校で行っているが、現場教職員の力量に委ねられている現状があり、学校・地域のニーズと産業界の支援提供者の情報が集約・可視化・仕組化されていない。</li> </ul> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を考える上では、東大阪にある製造業の大半はBtoBが主体であり、部品など普段目に見えないものや1社では完成しないものを扱っている企業が多いが故に、子供たちにとっては分かりにくいものである、というのは今後モノづくりを通じたキャリア教育を拡充させていく上では課題であるといえる。</li> <li>・今後の経済情勢を考えると、大企業に大量に人材が登用される時代は終わり、中小零細企業の1社ごとに1名を採用するという登用が主流になってくると思われる。その意味では、従来のように画一的なキャリア教育を供給することと同時に、ニーズに即した多種多様なキャリア教育の支援が必要になってくることは、学校教育で展開する上での課題であるといえる。</li> <li>・中小企業白書(2011)によると、製造事業所が減少・廃業する理由としては、「適切な後継者の不足」が資産超過の企業でも30%にのぼり、事業の担い手不足が深刻である。これは学校教育における人材育成(キャリア教育)を行う上で産業界側のニーズにどう対応していくかは課題だといえる。</li> </ul>
<b>3. 委託内容に対する取組</b>	
<b>(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営</b>	
■東大阪ええとこスクラム協議会の体制	

地域の推進体制  
(図などを用いて  
地域全体の体制  
が分かるように  
示すこと)



	団体名	役割
協議会の構成	東大阪ブランド推進機構	東大阪のモノづくり企業の代表組織 (今後の産業界側の連携・協働窓口として)
	株式会社大阪工作所	地元の産業界(特に経済同友会)との連携窓口 (職場体験・インターンシップの拡充および企業への啓発活動を行う際の連携窓口)
	NPO東大阪地域活性化支援機構	子供へのキャリア教育支援を行っている地域団体として
	大阪府商工労働部 中小企業支援課ものづくり課	大阪の中小企業・モノづくりを支援するお立場およびOBIO担当者として (協議会への指導助言協力など)
	東大阪市長官庁モノづくり支援室	行政として企業支援を行うお立場として
	東大阪市長官庁労働雇用政策室	行政として雇用・就職促進を行うお立場として
	東大阪市長官庁教育委員会 学校教育推進室	小中学校との連携・推進窓口として・実務担当
	東大阪市長官庁教育委員会 人権教育室	小中学校との連携・推進窓口として・実務担当
	NPO法人JAE	事務局運営・キャリア教育の実践におけるマッチング、コーディネート全般
	大阪商工会議所 人材開発部人材育成担当	<オブザーバー>大阪キャリア教育ステーションのノウハウを活かした産業界側のアドバイザー
大阪府教育委員会 市町村教育室小中学校課	<オブザーバー>大阪府の学校教育を推進者として教育界側のアドバイザー	
目標	<p>※地域における課題解決のために、協議会の目標を設定すること</p> <p>東大阪ええとこスクラム協議会では、地域一体となり東大阪における地域人材の育成を見据えた包括的な次世代育成支援を行い、主に6,000社ある市内の製造業の後継者不足(事業承継者不足)という産業界側の課題にも対応しながら、地域で暮らし、地域に根ざした事業所で働く人が生き生きと輝ける東大阪のまちの実現をめざす。</p>	
方針	<p>※目標達成に向けて、協議会の取組方針を設定すること</p> <p>(1)5年後までに、包括的な次世代育成支援の具体策として、東大阪独自の「地尊感情を育むキャリア教育」を市内の全中学校区にて展開するために、1,000人の担い手づくりと500社の体験(協力企業)づくりを行う。同時に教職員研修も行いながら教職員の技能向上もはかる。 (※「地」尊感情については別紙参照(資料2-1)のこと)</p> <p>(2)産業界側の主な課題である製造業の後継者不足(事業承継者不足)を解決するために、①経営者育成 ②生産技術者育成の2種類の人材育成について高校段階を中心としたアプローチ方法について、産業界ニーズを踏まえて2年以内に仮説化を行い、2017年以降は高校生の起業体験インターンシップ事業の展開など、仮説検証を行っていく。</p> <p>(3)2014年度以降は、本協議会の認知を「東大阪ええとこスクラムBOOK」の活用やフォーラム開催等を行いながら学校に訴求し、東大阪市長官庁の小学校・中学校・高校のニーズと支援提供者とのマッチング・コーディネートを積極的に行い、学校との信頼関係の構築に努める。</p>	
事業の自立的かつ発展的な運営体制	<p>(1)協議会の事務局および全体コーディネート(関係組織との関係性構築など)・マネジメントをNPO法人JAEが行い、東大阪市長官庁教育委員会は独自のキャリア教育プログラムの体系化および体制構築を中心に担うことで効率・効果的な協議会運営を行う。</p> <p>(2)協議会継続のための予算確保は大きな課題であるが、2014年度は引き続きNPO法人JAEが東大阪市長官庁教育委員会と連携しながら実務を担い、また2015年度以降の自主財源確保に向けての方針を、協議会の幹事にも指導助言を受けながら定めていき、自立化に向けて進めていく。</p>	

**(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進**

**①支援を提案する支援提供者を開拓すること**

東大阪市全域にキャリア教育の普及発展を促すことをめざし、東大阪ブランド推進機構や経済同友会と連携し支援提供者の開拓を4月以降に行うために、2013年度は関係機関との連携基盤の構築づくりに注力した。今後は「東大阪ええとこスクラムBOOK」の活用もはかりながら、キャリア教育支援を行うことが企業にとっての広報戦略となるような訴求を行いながら2014年4月以降、積極的に企業開拓を行っていく。

**②支援に関する提案を学校に提示すること。**

東大阪市全域にキャリア教育の普及発展を促すことをめざし、現状点在している支援提供者の情報を「東大阪ええとこスクラムBOOK」に集約し、東大阪市内の小学校・中学校・高校へキャリア教育支援に関する情報提供・発信を行う。(配布は2014年4月～5月を予定)

**③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。**

(1)東大阪市立意岐部東小学校にて、学校より『「平和学習報告会」に向けて演劇の質をあげられないか』という依頼があり、近畿大学文芸学部舞台芸術専攻科の教授に相談し、教授の提案で同教授および学生が小学生の演劇指導にあたり交流した。(別紙、総会資料の「近畿大学 文芸学部 舞台芸術専攻科との交流「平和学習報告会」に向けての演劇指導を通じて」参照)  
(2)3/12に東大阪市立意岐部中学校にて学校より「職場体験の事前学習にモノづくりの企業さんに話してもらえないか」という打診があり、経済同友会に打診したところ、(株)大阪工作所の高田会長を推薦され、講和頂いた。(別紙、「大阪工作所 高田会長のお話」参照)

**(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進**

**①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。**

東大阪市全域にキャリア教育の普及発展を促すことをめざし、現状点在している支援提供者の情報の集約と学校のニーズ調査を行いながら、東大阪ブランド推進機構や経済同友会と連携し不足している業種・企業規模の事業所開拓を4月以降に行うため、関係機関との連携基盤の構築を今年度は行った。  
中学校においては製造業の職場体験受け入れ先の拡充が必要であるが、日新高校やその他の高校においては、引き続き学校ニーズを元に事業所開拓を行っていく。

**②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。**

東大阪市立日新高校に訪問し、東大阪ブランド推進機構や経済同友会で教育支援を行う企業の情報提供を行った。年度末であったので提示にとどまり、4月以降に学校側のニーズに応じた支援を行っていく。

**③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。**

事業当初が11月であったので、年度内でのマッチングには至らなかったが2014年度に向けて「東大阪ええとこスクラムBOOK」の配布を通じて学校のニーズを聞きだしマッチングを行っていく。

**(4)その他の取組**

- ・「高井田ものづくり体験塾フォーラム」の見学を行い、大阪府立布施工科高校がモノづくり企業へ「聴き書き」を行うというキャリア教育の実践を見学し高校とも接点をもった。
- ・NPO東大阪地域活性化支援機構が行う「モノづくり体験教室」の授業実践を見学に行き、教育支援を行っている企業担当者へのインタビューを行った。
- ・東大阪独自のキャリア教育の理念づくり(「地尊感情を育む教育」)を行った。

**4. 計画・スケジュール**

実施時期	実施内容
2013年11月	協議会の発足
2013年11月～2014年3月	東大阪市教育委員会と協議会立ち上げに向けた定例会議を月1回以上開催した。
2013年12月～2014年1月	12/19に協議会設置に向けたインタビューを行った(東大阪ブランド推進機構:安川様、大阪商工会議所:廣田様) 12/24他地域での先行事例の視察(瀬戸キャリア教育推進協議会)
2013年12月～2014年2月	東大阪におけるキャリア教育支援提供者の情報収集&事業者の開拓 学校でのニーズ希望調査活動 産業界へ産業界側のニーズや課題の聞き取り
2013年12月～2014年2月	モデル校を設定し、キャリア教育コーディネーターを活用しキャリア教育支援のマッチング・コーディネートを行う
2014年1月～3月	キャリア教育支援提供者のメニュー一覧を作成 2/9 他地域の先進事例の視察(島根県雲南市教育委員会) 2/20に協議会設置に向けた意見交換会議を行い、関係者から東大阪の課題とビジョンをインタビューした。
2014年2月～3月	本事業の成果と課題の共有、次年度の運営について協議の上決定 3/19東大阪ええとこスクラム協議会設立総会の開催

**5. 協議会の成果と課題**

■成果

地域の中にもよりますが、産業界、教育支援提供者、学校、地域の連携関係者から「東大阪ええとこスクラム」協議会、

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。  
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

・地域の中に点仕していた産業界・教育支援提供者・学校・地域の主要関係者を「東大阪ええとこネットワーク協議会」を介してつなぎ、「地域の人材育成を見据えた包括的な人材育成支援」という共通ビジョンのもと顔の見える組織体の設立に至ったこと。

・東大阪における70社以上の製造業企業群の代表組織である「東大阪ブランド推進機構」および経済同友会のメンバーである株大阪工作所が協議会メンバーに加入したことで、2014年度以降の産業界と教育界の相互連携・協力体制の基盤が整った。

・協議会の今後の主たる機能であるマッチング・コーディネートトライアルとして、年度内に2つの学校(意岐部中学校・意岐部東小学校)と連携を行った。その結果、担当教職員のアンケート結果で7割以上の満足度を得られたことで、学校側のニーズの検証がはかれた。

・本事業を機に東大阪の現状と課題を踏まえた産業界・教育界共通のビジョン・理念を形づくり、具現化した「東大阪ええとこスクラムBOOK」の作成・発行ができたことで、東大阪における包括的な次世代育成支援という目標に対して基盤づくりを行えた。

#### ■課題

・小学校、中学校ではキャリア教育プログラムのマッチング・実践コーディネートが実現したが、高校においては接点をもち現状をインタビューするに留まり実際にマッチング・コーディネートまで至らなかった。

・東大阪の産業界を束ねる組織体として東大阪商工会議所へも協議会への参画を打診したが叶わなかった。

・協議会の組織設立に注力をおいたことで、継続的な自立化に向けた運営方法の方針などが定められなかった。

・高校と連携した実践は年度内は行えなかったため、高校との具体的な連携・支援については課題として残った。